

2012年11月16日

会員各位

日本ファイナンス学会
「研究観望会」幹事 祝迫 得夫

第22回研究観望会開催のお知らせ

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本ファイナンス学会第22回研究観望会を下記の要領により開催することといたしました。今回は「銀行取引関係の実証分析：計測指標、決定要因、企業ダイナミクスへの影響」をテーマに、裏面要旨のとおり、たいへん興味深い報告がなされる予定ですので、ふるってご参加たまわりますようお願い申し上げます。ご出欠につき、同封の申込書（葉書/Fax）にて12月12日（水）までにご返事いただければ幸いです。ホームページからのお申込みも可能ですのでご利用下さい(<http://www.nfa-net.jp>)。なお、参加者多数の場合には、先着順とさせていただきます。

また、研究観望会では、別紙要領のとおり、報告者を募集しております。自薦他薦ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。とりいそぎ、ご案内する次第です。

敬 具

記

テーマ：「銀行取引関係の実証分析：計測指標、決定要因、企業ダイナミクスへの影響」

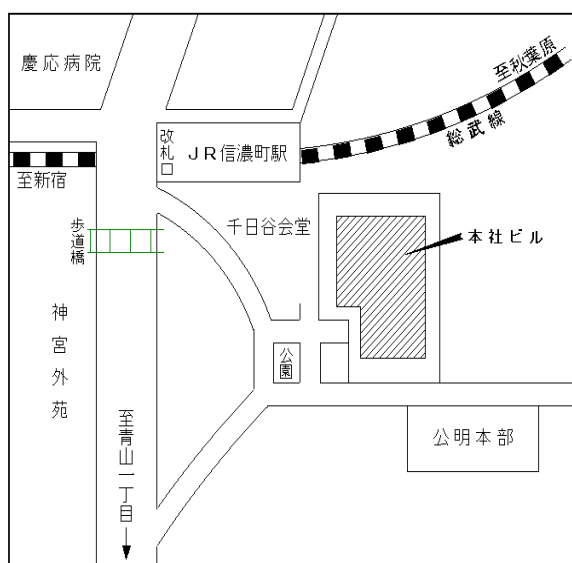
報告者：宮川 大介 氏（日本政策投資銀行設備投資研究所）

日 時：2012年12月14日（金）午後6時30分より

会 場：一般社団法人 金融財政事情研究会 2F第1会議室（下図参照）

東京都新宿区南元町19（〒160-8519）Tel：03(3354)2377

JR「信濃町」徒歩5分



研究観望会のお問合せ先：

幹事 祝迫 得夫

（一橋大学経済研究所教授）

Tel：042(580)8312

E-mail：iwaisako@ier.hit-u.ac.jp

申込先：日本ファイナンス学会事務局
（阿部・小林(奈)）

東京都新宿区南元町19（〒160-8519）

Tel：03(3354)2377

Fax：03(3359)7947

E-mail：honbu@nfa-net.jp

URL：http://www.nfa-net.jp

以上

日本ファイナンス学会
第 22 回研究観望会

「銀行取引関係の実証分析：計測指標、決定要因、企業ダイナミクスへの影響」

日本政策投資銀行 設備投資研究所
副主任研究員 宮川 大介

報告の概要：

本報告では、金融仲介機関の役割に関する経済学的な議論のうち、企業と銀行との間の「取引関係」に着目した実証研究を概観し、今後の研究課題を展望する。第一に、企業と銀行との多様な取引関係をどのように「計測」するかについての議論をサーベイする。一般的に、銀行は顧客企業に対して、資金やサービスの提供を長期に亘る取引関係の中で行い、対応するレントを要求する。また、企業が複数の銀行との取引関係を有する一方、銀行も複数の企業へのサービス提供を行っている。これらの特徴を有する企業と銀行との取引関係について、どのような属性に注目して計測がなされてきたのかを整理することが、本報告の第一の目的である。第二に、こうして計測された取引関係の「決定メカニズム」に関する先行研究について議論する。企業と銀行が、いかなる動機に基づいて取引関係を構築するのかという問題については、90年代以降に進展した理論的な研究から多くの実証的な含意が得られて来たが、企業や銀行、さらには両者のマッチレベルで計測されたマイクロデータの利用が急速に進んだことで、こうした理論的予測を実証的に検証した研究が蓄積されている。報告者自身の研究を含む実証結果を概観することで、取引関係の決定メカニズムとして、一定のコンセンサスが得られているものを提示することが、本報告の第二の目的である。第三に、取引関係が顧客企業へ与える「影響」に関する先行研究をサーベイする。近年の実証研究から、銀行と企業との取引関係が、企業の資金調達の高難易度や有形・無形のサービス利用機会に影響を与え、結果として企業の設備投資や市場からの退出といった、いわゆる「企業ダイナミクス」へ影響を及ぼすことが指摘されている。この点についても、マイクロデータの利用可能性が向上したことで、近年急速に実証研究の蓄積が進んでおり、そのような新しい実証結果を概観することが、本報告の第三の目的である。最後に、これらの研究を踏まえて、今後研究の進展が期待される幾つかのテーマについて議論するとともに、実証結果の経済的な重要性や実務への含意に関しても議論する予定である。

日本ファイナンス学会「研究観望会」

報告者募集要領

研究観望会運営委員会

代表幹事 祝迫 得夫

研究観望会は、世界のファイナンス研究の最新動向をテーマ別に展望するもので、各トピックに関する最新の成果をサーベイした報告を通じて、会員各位の知識・情報の整理に役立てるとともに、会員の研究活動の促進に寄与することを目的としたものです。この目的にそった報告者を下記要領にて募集いたしますので、ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。なお、報告内容については、幅広く、理論、方法論、実証研究、制度の現状と展望等々にいたるまで歓迎いたします。

とりわけ、若手研究者を歓迎し、研究奨励的な運営を企図しております。必要に応じた交通費、宿泊費を支給するとともに、報告に対する研究奨励金も支給いたします。

ご応募いただきますと、運営委員会が合議のうえ諾否を決め、結果を応募者個人に直接お知らせいたします。

ご応募にあたっては、以下の必要書類を日本ファイナンス学会事務局までお送りください。研究観望会の円滑な運営のため、提出はすべてPDFファイルでおこなって頂くのが望ましいですが、ハードコピーで提出される場合は、お手数ですが必要書類を各4部ご用意のうえ郵送してください。

- (1) 報告論文のテーマと章建て計画
- (2) 各章各節の詳細な要旨
- (3) 報告分野に関する参考文献表
- (4) 報告者の略歴とこれまでの研究成果
- (5) 報告分野と関連した報告者の論文等著作物がある場合はそのコピー

なお、完成論文がある場合は、(1)～(3)に代替できます。

応募先/問合せ先：

日本ファイナンス学会 研究観望会
〒160-8519 東京都新宿区南元町 19
一般社団法人 金融財政事情研究会 内
Tel: 03(3354)2377 Fax: 03(3359)7947
E-mail: honbu@nfa-net.jp